

1. 日米株式と円/ドルの推移

<日本株 (日経平均)>



<米国株 (NYダウ)>



<円/ドル>



(注)チャートは過去1年

	単位	2023/12/31	2024/9/30	2024/10/18	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	33,464.17	37,919.55	38,981.75	42,426.77	2024/7/11	24,681.74	2022/3/9
NYダウ	ドル	37,689.54	42,330.15	43,275.91	43,325.09	2024/10/18	28,660.94	2022/10/13
円/ドル	円	141.04	143.63	149.53	161.95	2024/7/3	112.53	2021/11/30

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

～ 海外の半導体関連企業の決算発表の影響を受け下落～

先週の日本株市場は、日経平均が▲624.05円 (▲1.58%)、TOPIXが▲17.22ポイント (▲0.64%) となり、海外の半導体関連企業の決算発表の影響を受け下落しました。業種別でみると銀行業、海運業、保険業などの10業種が上昇した一方、石油・石炭製品、鉱業、精密機器などの23業種が下落しました。

週初15日は、先々週末に米国株市場が上昇したことや為替が1ドル149円台まで円安進行したことが好感され、幅広い銘柄に買いが集まり上昇しました。16日は、前日オランダの大手半導体製造装置ASMLの決算発表で、中国を中心とした半導体の新規受注が低迷していると伝わったことなどから、日本株市場も半導体関連銘柄を中心に下落しました。翌17日は、台湾の大手半導体メーカーTSMCが好決算を発表したことが株価を下支えしたものの、前日の米国株市場で半導体関連株が下落したことや中国政府が発表した追加の不動産支援策が期待を下回ったことなどから小幅な下落となりました。週末18日は、前日発表された9月の米小売売上高が予想を上回ったことが株価の上昇要因に働いた一方、来週以降に日本の主要企業の決算発表や衆議院議員総選挙を控えていることが投資家の様子見姿勢に繋がったことが上値抑制要因となり、小幅な上昇となりました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
10月21日	Mon	米国	景気先行指標総合指数	9月	▲0.2%
10月22日	Thu	国際	IMF、WEO(世界経済見通し)公表予定		
		欧州	ユーロ圏消費者信頼感指数	10月	▲12.9
10月23日	Wed	米国	中古住宅販売件数	9月	386万件
			ペーパージュブック(米地区連銀経済報告)公表		
		欧州	ユーロ圏製造業PMI(購買担当者景気指数)	10月	45.0
			ユーロ圏サービスマネジメントPMI	10月	51.4
10月24日	Thu	米国	製造業PMI	10月	47.3
			サービスマネジメントPMI	10月	55.2
			新築住宅販売件数	9月	71.6万件
		日本	東京都都区部CPI(消費者物価指数)(除生鮮食品/前年比)	10月	+1.6%
10月25日	Fri	ドイツ	IFO企業景況感指数	10月	85.4
		米国	耐久財受注(前月比)	9月	+0.0%
			ミシガン大学消費者信頼感指数	10月	68.9

決算発表予定 他	国内	決算発表 :	10/22 ニテック 10/23 キヤノン 10/24 ファナック、ミスミグループ本社、中外薬、信越化学、日立建機
	海外	決算発表 :	10/21 SAP 10/22 セネラル・モーターズ、GEエレクトリック、フィリップ・モリス、フリーポート・ベライヴン、ロッキード、3M、TI 10/23 ドイツ銀行、ロイス・バンキング・グループ、AT&T、ボーイング、ユカ・コアラ、Tモバイル、IBM、ラムリサーチ、テスラ 10/24 パークレイズ、UPS、SKハイニックス 10/25 ナットウエスト・グループ、メルセデス・ベンツグループ

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～ 米景気やFRBの利下げ継続期待などが支えとなるも、中間決算や衆議院選挙を巡る様子見姿勢が強まり横ばい圏で推移～

今週の日本株市場は、米景気やFRB (米連邦準備理事会) の利下げ継続期待が支えとなるも、中間決算や衆議院選挙を巡る様子見姿勢が強まり横ばい圏で推移するとみえます。

先週発表された米小売売上高は、市場予想を上回り米景気の堅調さを示す内容となりました。また、米景気の堅調さを示す経済指標の発表が相次ぐ中でもFRBが緩やかなペースでの利下げを継続するとの期待は維持されており、グローバルでリスク資産にとって居心地の良い環境は維持されるとみえます。また、足元までに発表された米企業の7-9月期業績は総じてみれば堅調な結果となっており、米国株市場の堅調を通じて日本株市場のサポート材料に繋がるとみえます。ただし、国内企業の業績については、国内消費の弱さや中国景気の回復の遅れ、為替レートの不安定さなどの不透明要因が散見されることから、決算を見極めたいとの姿勢が強まり積極的な買いは手控えられるとみえます。また、27日に投開票を迎える衆議院選挙について、一部報道において与党の厳しい情勢が伝わる中で政治的不透明感も意識されやすいことも、上値を抑制するとみえます。その他の注目材料として、日本では25日の東京都都区部CPI、米国では23日の中古住宅販売件数、ペーパージュブック、24日の製造業/サービスマネジメントPMI、欧州では23日のユーロ圏消費者信頼感指数、24日のユーロ圏製造業/サービスマネジメントPMI、ドイツでは25日のIFO企業景況感指数、国際では22日のIMFのWEOなどが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co.,Ltd.

URL: <https://www.alamco.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会